

皆様、おはようございます。

8月も終わりに近づいてまいりました。晩には少し肌寒く感じる日もありました。

秋に向かって気候が変化しますが、皆さまどうぞ体調にお気を付けてください。

黙示録に戻ってまいりました。今日から3章です。

サルデスの教会に宛てられた主の手紙です。

1 サルデスにある教会の御使に、こう書きおくりなさい。『神の七つの霊と七つの星とを持つたが、次のように言われる。わたしはあなたのわざを知っている。すなわち、あなたは、生きているというのは名だけで、実は死んでいる。

「スミルナとヒラデルヒヤの両教会は何の非難も受けなかったが、サルデスとラオデキヤの両教会は何の賞賛も受けなかった」とありますが、その通り、「あなたは、生きているというのは名だけで、実は死んでいる。」とは、ショッキングな言葉です。

神の七つの霊と七つの星とを持つ主との紹介があります。七つの霊とは聖霊を指し、七つの星とは、七つの教会の天使(働き人)たちを指します。

生きているというのは名ばかり。実は死んでいる。

名ばかりの、名目的なクリスチャンと呼ばれてしまいたくはないものです。世俗化の波という言葉がありますが、ヨーロッパの方の大聖堂のようなところに行っても、日曜日の礼拝の時には壮大なチャペルの中に人がまばら、という事では、ずいぶんとお寂しいですね。「キリスト教国」と呼ばれるようなところでも、世俗化の波の中、信者とは名ばかりであるということは寂しいものです。キリスト教国の中、ドイツでは教会税もあり、犬にもプロテスタントかカトリックかと尋ねるという冗談があるくらいですが、名前としてはクリスチャン、あああなたもですかと挨拶をしても、その内実がないとすると、深刻なことだと思います。しかしそれは何もキリスト教国の中だけの事ではなくて、日本のキリスト教会の中でも同じように言えることです。名ばかりであり、実は死んでいる…。本当に、そうはなりたくないものです。

エペソの教会に語りかけられた主の言葉を思い起こします。

「あなたはどこから落ちたかを思い起し、悔い改めて初めのわざを行いなさい。もし、そうしないで悔い改めなければ、わたしはあなたのところにきて、あなたの燭台をその場所から取りのけよう。」

2 目をさまして、死にかけている残りの者たちを力づけなさい。わたしは、あなたのわざが、わたしの神のみまえに完全であるとは見ていない。

3 だから、あなたが、どのようにして受けたか、また聞いたかを思い起して、それを守りとおし、かつ悔い改めなさい。もし目をさましていないなら、わたしは盗人のように来るであろう。どんな時にあなたのところに来るか、あなたには決してわからない。

教会の天使らよ、働き人たちよ、目を覚ましていなさい。そして死にかけている残りの者たちを力づけなさい。わたしは、あなたのわざが、わたしの神のみまえに完全であるとは見ていない。

1 テサロニケ 5 章の御言葉が思い出されます。

1 テサロニケ 5:2 あなたがた自身がよく知っているとおりに、主の日は盗人が夜くるように来る。

5:3 人々が平和だ無事だと言っているその矢先に、ちょうど妊婦に産みの苦しみが臨むように、突如として滅びが彼らをおそって来る。そして、それからのがれることは決してできない。

5:4 しかし兄弟たちよ。あなたがたは暗やみの中にいないのだから、その日が、盗人のようにあなたがたを不意に襲うことはないであろう。

5:5 あなたがたはみな光の子であり、昼の子なのである。わたしたちは、夜の者でもやみの者でもない。

5:6 だから、ほかの人々のように眠っていないで、目をさまして慎んでいよう。

5:7 眠る者は夜眠り、酔う者は夜酔うのである。

5:8 しかし、わたしたちは昼の者なのだから、信仰と愛との胸当を身につけ、救の望みのかぶとをかぶって、慎んでいよう。

5:9 神は、わたしたちを怒りにあわせるように定められたのではなく、わたしたちの主イエス・キリストによって救を得るように定められたのである。

5:10 キリストがわたしたちのために死なれたのは、さめていても眠っていても、わたしたちが主と共に生きるためである。

5:11 だから、あなたがたは、今しているように、互に慰め合い、相互の徳を高めなさい。

5:12 兄弟たちよ。わたしたちは願います。どうか、あなたがたの間で労し、主にあってあなたがたを指導し、かつ訓戒している人々を重んじ、

5:13 彼らの働きを思って、特に愛し敬いなさい。互に平和に過ごしなさい。

5:14 兄弟たちよ。あなたがたにお勧めする。怠惰な者を戒め、小心な者を励まし、弱い者を助け、すべての人に対して寛容でありなさい。

5:15 だれも悪をもって悪に報いないように心がけ、お互に、またみんなに対して、いつも善を追い求めなさい。

5:16 いつも喜んでいなさい。

5:17 絶えず祈りなさい。

5:18 すべての事について、感謝しなさい。これが、キリスト・イエスにあって、神があなたがたに求めておられることである。

また、「死にかけている残りの者たちを力づけなさい」との御言葉には、主がペテロが3度否むと予告なされた時の御言葉が思い出されます。

ルカ 22:31 シモン、シモン、見よ、サタンはあなたがたを麦のようにふるいにかけることを願って許された。

22:32 しかし、わたしはあなたの信仰がなくならないように、あなたのために祈った。それで、あなたが立ち直ったときには、兄弟たちを力づけてやりなさい。

22:33 シモンが言った、「主よ、わたしは獄にでも、また死に至るまでも、あなたとご一緒に行く覚悟です」。

22:34 するとイエスが言われた、「ペテロよ、あなたに言うておく。きょう、鶏が泣くまでに、あなたは三度わたしを知らないと言うだろう」。

私たちのわがが、神様の前に完全であるために、主はこう言われました。

3 だから、あなたが、どのようにして受けたか、また聞いたかを思い起して、それを守りとおし、かつ悔い改めなさい。

私たちはこの聖書の教え、神様の救いの知らせをどのようにして受け、また聞いたのでしょうか。

それはイエス様の贖いによってです。

ビリピ 2:4 おのおの、自分のことばかりでなく、他人のことも考えなさい。

2:5 キリスト・イエスにあっていただいているのと同じ思いを、あなたがたの間でも互に生かしなさい。

2:6 キリストは、神のかたちであられたが、神と等しくあることを固守すべき事とは思わず、

2:7 かえって、おのれをむなしうして僕のかたちをとり、人間の姿になられた。その有様は人と異ならず、

2:8 おのれを低くして、死に至るまで、しかも十字架の死に至るまで従順であられた。

2:9 それゆえに、神は彼を高く引き上げ、すべての名にまさる名を彼に賜わった。

2:10 それは、イエスの御名によって、天上のもの、地上のもの、地下のものなど、あらゆるものがひざをかがめ、

2:11 また、あらゆる舌が、「イエス・キリストは主である」と告白して、栄光を父なる神に帰するためである。

ヘブル 12:1 こういうわけで、わたしたちは、このような多くの証人に雲のように囲まれているのであるから、いっさいの重荷と、からみつく罪とをかなぐり捨てて、わたしたちの参加すべき競走を、耐え忍んで走りぬこうではないか。

12:2 信仰の導き手であり、またその完成者であるイエスを仰ぎ見つつ、走ろうではないか。彼は、自分の前におかれている喜びのゆえに、恥をもいとわないで十字架を忍び、神の御座の右に座するに至ったのである。

12:3 あなたがたは、弱り果てて意気そそうしないために、罪人らのこのような反抗を耐え忍んだかたのことを、思いみるべきである。

私たちの信仰が、私たちの主イエス様とどのような関係となっているのか、強く結びついたものであるのか、そのようなことをいつも思い、悔い改め、心の向きをいつもイエス様に向けなおすことが私たちに示されています。

それでこそ、「主は、わたしたちの罪過のために死に渡され、わたしたちが義とされるために、よみがえらされたのである。」(ローマ 4:25)

「4 すなわち、わたしたちは、その死にあずかるバプテスマによって、彼と共に葬られたのである。それは、キリストが父の栄光によって、死人の中からよみがえらされたように、わたしたちもまた、新しいのちに生きるためである。

5 もしわたしたちが、彼に結びついてその死の様にひとしくなるなら、さらに、彼の復活の様にもひとしくなるであろう。」(ローマ 6:4-5)

このイエス様にあらわされた父なる神様のお力にあずかることができます。

2 コリント 6:1 わたしたちはまた、神と共に働く者として、あなたがたに勧める。神の恵みをいたずらに受けてはならない。

6:2 神はこう言われる、／「わたしは、恵みの時にあなたの願いを聞きいれ、／救の日にあなたを助けた」。見よ、今は恵みの時、見よ、今は救の日である。

6:3 この務がそしりを招かないために、わたしたちはどんな事にも、人につまづきを与えないようにし、

6:4 かえって、あらゆる場合に、神の僕として、自分を人々にあらわしている。すなわち、極度の忍苦にも、患難にも、危機にも、行き詰まりにも、

6:5 むち打たれることにも、入獄にも、騒乱にも、労苦にも、徹夜にも、飢餓にも、

6:6 真実と知識と寛容と、慈愛と聖霊と偽りのない愛と、

6:7 真理の言葉と神の力とにより、左右に持っている義の武器により、

6:8 ほめられても、そしられても、悪評を受けても、好評を博しても、神の僕として自分

をあらわしている。わたしたちは、人を惑わしているようであるが、しかも真実であり、
6:9 人に知られていないようであるが、認められ、死にかかっているようであるが、見よ、生きており、懲らしめられているようであるが、殺されず、
6:10 悲しんでいるようであるが、常に喜んでおり、貧しいようであるが、多くの人を富ませ、何も持たないようであるが、すべての物を持っている。

4 しかし、サルデスにはその衣を汚さない人が、数人いる。彼らは白い衣を着て、わたしと共に歩み続けるであろう。彼らは、それにふさわしい者である。

3:5 勝利を得る者は、このように白い衣を着せられるのである。わたしは、その名をいのちの書から消すようなことを、決してしない。また、わたしの父と御使たちの前で、その名を言いあらわそう。

3:6 耳のある者は、御霊が諸教会に言うことを聞くがよい』。

ピリピ 4:1 だから、わたしの愛し慕っている兄弟たちよ。わたしの喜びであり冠である愛する者たちよ。このように、主にあって堅く立ちなさい。

4:2 わたしはユウオデヤに勧め、またストケに勧める。どうか、主にあって一つ思いになってほしい。

4:3 ついては、真実な協力者よ。あなたにお願いする。このふたりの女を助けてあげなさい。彼らは、「いのちの書」に名を書きとめられているクレメンスや、その他の同労者たちと協力して、福音のためにわたしと共に戦ってくれた女たちである。

4:4 あなたがたは、主にあっていつも喜びなさい。繰り返して言うが、喜びなさい。

4:5 あなたがたの寛容を、みんなの人に示しなさい。主は近い。

4:6 何事も思い煩ってはならない。ただ、事ごとに、感謝をもって祈と願いとをささげ、あなたがたの求めるところを神に申し上げるがよい。

4:7 そうすれば、人知ではとうてい測り知ることのできない神の平安が、あなたがたの心と思いとを、キリスト・イエスにあって守るであろう。

4:8 最後に、兄弟たちよ。すべて真実なこと、すべて尊ぶべきこと、すべて正しいこと、すべて純真なこと、すべて愛すべきこと、すべてほまれあること、また徳といわれるもの、称賛に値するものがあれば、それらのものを心にとめなさい。

「白い衣」とは、「輝く衣」を意味します。

「わたしと共に歩み続ける」とイエス様からのお言葉がありました。福音のために歩み続けるということは、その自らの衣を真っ黒にして西に東に木谷南に走り回ることを意味すると思えますし、迫害のうちに衣を地に染めることをも意味するかもしれません。衣と

は、その人の生涯を指すものであるかもしれません。

その人の生涯は、つらい、困難な、試練と波乱とに満ちたものであったかもしれません。しかしそれらの苦悩と迫害による辛さは、汚れは、やがて純白に輝くいのちへと取り換えられるのです。そして私たちの名は、いのちの書に記され、主は父なる神と御使たちの前で、その名、私たちの名をを言いあらわしてくださるのです。

ですから、私たちは残りの者たちを力づけ、自らも赦しの中、悔い改めて、どのようにして受けたか、また聞いたかを思い起して、それを守りとおして行きたいと願います。

◇祈禱；天の父なる神様、今日の礼拝を感謝します。弱くつたない私たちを主イエス様の尊い命をもって贖い、常にとりなし祈り、力づけ、お導き下さいます恵みに感謝いたします。輝く衣を着せて下さり、いのちの書に名を記し、私たちの名を呼んでくださいますからありがとうございます。子供からお年寄りまで、あらゆる年齢の方々が、この時こそ教会にて、イエス・キリストに出会うことができますようお願いいたします。私たちの家族と、地域の方々を祝福して下さい。主イエス様の御名によって祈ります。アーメン